

保 育 の 実 際

お も い て

厚生保母養成所

奥

壽

儀

私が初めて成城幼稚園にいつたのは昭和二年の秋でした。雑木林の庭には秋草が亂れ、栗は笑い、小川はうたうという實に田園味豊かなところなのでとても嬉しくなりました。

園舎は主事の小林宗作先生が設計なさった遊戲室を中心に周圍が保育室という少し型の變つた建物でした。

主事先生が初めてのお言葉に

「子供は先生の計畫にはめてはいけない、自然の中へ放り出してあげ、先生の計畫より子供の夢の方がよっぽど大きいよ」

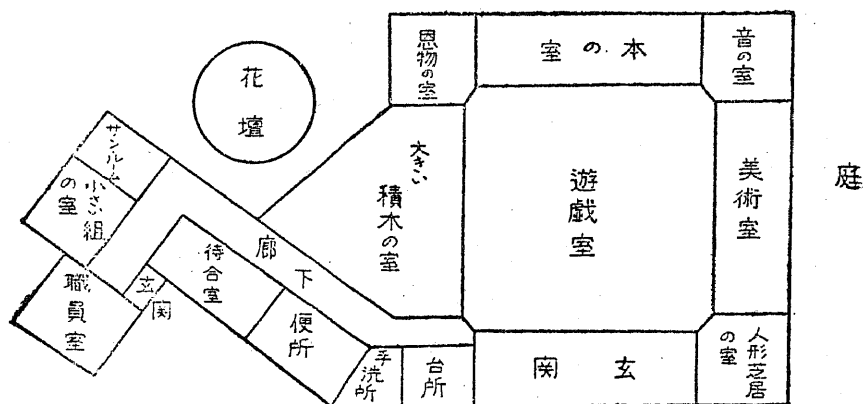
と、何とうれしい保育方針であろうと、感激してしまいました。實は保母になつて滿二年、その頃私の目にふれた幼稚園というものは手技と遊戲で時を滿し、小學校の授業のやうに室に入れては物を教える保育法でした。

「これが幼稚園というものか、幼児教育とはこんなことでよろうか」

と大きな疑問と不満になやんでいた時でしたから、それこそ目がさめたような氣持がしました。また住宅が少いので幼児はわずか十四五名で、主事は終日何かしら子供の遊び道具を作つたり未完成の庭の手入などしていらつしやるのでした。幼児たちは主事が作つて下さつた木の間のブランコや、栗の木かけの砂場であそんだり、時には仕事のお手傳いをしにりして、所謂幼稚園の感じとは異つた實に自然な生活でした。或る時古三輪車を利用して作つて居られた箱車が出來上つたのがやがて三時でした。

「ソーラ出來たゾ」

というがいなや、今まで目をくる／＼して待ちかねていた子達と一處にガラ／＼と引はり出して野芝を採りに行つたことがありました。さすがの私もびつくりしましたが、子供たちは平氣なもの、時間など問題ではないのです。疲れるなどの心配はいらないのです。幼児達は出來あがつたのが嬉しいの



各室の設備

ピアノ

遊戯室

幼児用整理引出、手技材料、参考品

美術室

卓上ピアノ、木琴、太鼓

音の室

繪本、童話、紙芝居、繪合せかるた、文字板

本の室

附ままごとの室
窓入口付いたてで仕切る、人形、ままごと用具

恩物の室

フレイベル第五、第六恩物

大きな積木の室

モンテソリー教具、デクロリー教具、リズム積木机上用

ヒル氏の積木、リズム積木床上用

フレイベル床上用積木

附砂箱

古机利用

人形芝居の室

人形太鼓、舞臺は入口利用

附辨當置場

お辨當棚

廊下

帽子掛、オーベ掛

ですもの、この悦びこの感激は明日まで待てないのです。私は感激というものが、教育上大切だということを此時はつきり知りました。

又何か不足な品物が出来るよ

「買いいのに行くよオー」

と聲かけて出てゆかれます。するとちり／＼に遊んでゐた幼児たちは、サーッと一齊について飛び出します。野道を先だちで走ります。二三人が急に立止つたかと思うと幾から大きなバツタが飛び出す、追かける大さわぎです。女の子は花を摘むのが好きで、とかく足がおくれがち

「もう少し長くつて下さいよ。花びんに挿しても水までとどかないではありませんか」

というと、ニコリして走つて來ます。小川の岸に咲いている野菊をとり草の中へ入つていつた子が出て來ると、裾に一ぱいのこづちがついていました。

「お供しましょう」

とそれからわざとつけあい、追いつ追われつ道がはかどります。こうしてきんみずひきや、ぬすびと萩など裾につく實を知りました。笹舟を流したり、草笛を吹いたりしながら、さて町へ入ると今度は新築中の家の前に立止り、魚やの店先にしやがみにみ、などして買物といつても、半日がかりでした。

中に昆虫博士といはれる程、蟲の好きな子がいました。蟲に對する眞剣さはかく別なのです。ですから蟲のいる所も、

名もよく知っていますし、捕えることも上手でした。私はこの子に刺戟されて幼児達と一處に昆虫の標本をつくりました。が、集めてみて驚いたのはこの邊に、とんぼの種類だけでもすいぶん澤山あるということでした。これがやがて他の子達にも影響して、何か變つた蟲がいると大さわぎしてわれ先にと報らせに來るようになりました。幼稚園時代の子に標本を作ることはかく別必要ではありませんが、そのことによつて今まで無關心でいた蟲に非常な興味を持つようになったことと、異つた種類のものを集めてみることの面白さを知つたことが嬉しうございました。雜草の方はめい／＼に古ノートへ押葉させておき、費用紙に整理して帖させたのが卒業の時のよい紀念品となり、従つて草にも大變親しみを持つようになりました。とかく町育ちの子は物に無關心だということが、市内から通園する子が多くなつた時特に感じられたことでした。

いながらもつかめない子がはじめて捕えることが出來た時の顔。小さい溝がとべなくてペソをかいていた子が、少しの誘導で初めて飛びこせた時の顔。自分にも出來るのだという經驗を初めて得た時の感激は深いものです。そしてくりがえしによつて自信の出來た時のよろこびは、とても大きいものです。

俗に芝山と呼ぶ幼児の大好きな處がありました。高等學校の生徒が射撃練習に使うので、外側は道路に添うているので三メートル位の高さで芝生でしたが、内側は八九メートルも

あり、赤土に處々雜草が生えている殆ど垂直面の處でした。

この上でよくお辨當をいたゞき、下の草原で遊んだものでしたが、食後この高い處をよじのぼる子たちがありました。すべりおちても下は草だからと自由にしておきましたら、いつの間にかこれを征服してしまいました。つかまるとすぐぬける草、なか／＼ぬけない笹など幼児たちは何邊かの経験の結果とうとう成功したのです。其得意さ、私も共にうれしくてたまりませんでした。小川の丸木橋渡りなども初めは四つばいになつてこれと通る子が、やがて平氣でどん／＼渡ります。たまにいらしたお母様が落ちたことはありませんが、幼児は誰一人落ちたものはありませんでした。

或る日美術室をのぞいてみたら、二三人の男の子が各自紙で飛行機をつくつていましたが、實に傑作なのでしばらく借りて飾つておきました。それを見たら又次々と佳作が出来て遂に飛行機の展覽會になつてしまつたことがありました。自由畫なども獨りで何やらしやべりながら無我の境に入つてゐる時、だまつて夢中にクレオンを動かしている時、などにこそいゝものが出来ました。積木の室で二人の子が仲よく作つていたビルデングがあまり、美事なので寫眞にとつたこともありました。

此處では室を組でわけず仕事でわけてゐるのです。(圖面参照) 雨の日など終日同じ室にいる子もあれば、盛にまわつてゐる子もあります。ヒル氏の積木などはホールまで一ぱいにひろげ、主として電車ごっこ(小田原急行)をしていま

したが、この遊びの發展よりは面白いものでした。共同の人数もだん／＼増し遊びも複雑になつていきます。各驛停車の電車が直通を通すため待避線に入つて待つてゐる仕組みなどほ／＼笑ふしく、停車場など實感が出てゐるので

「まあ、あの驛よく感じが出てゐるのね」

と先生たちがびつくりすることも度々でした。何といつても自由に遊んでゐる時の方がよいものが出来ます。せつかくたのしく遊んでゐるところを、

「お集り／＼」

と遊びを中斷され、室に押しこまれ、したくもないものを強制されていゝものが出来る筈はありません。先生に教えられ手傳われてきれいに出来た手技を歸りみちで惜し氣もなく捨てゝゆく子が、獨りでこねまわして作つた何だか物もわからないようなものを大切そうに持つて歸えるのをみかけましたが、自分で考へて作つたものは子供にとつてあんなにも悦びなのですね。これには私も考へさせられました。けれども全然自由意志にばかりまかせておくと、好きな遊びにばかり片よるといふことに氣が付きましたので、一日の内一度だけ三十分間、先生の案によつて指導する時間をつくりました。各組が一齋に始めることもあり、又組々が適宜な時を選ぶ時もありましたが、室は毎日順送りに變えて使うことにしてありました。

○ 其頃は電車遊園の子も増えて、六十名の定員に満ち保姆も

四名となつていました。一組としては少い人数ですが、集るとなれば賑／＼やかでした。此時主事は

「グループ分散せよ」

と教えられました。其處で組々は散歩に出ることによつて、お互にはなれるよう工夫しました。一番小さい組は六名定員で別棟の方に家庭的な生活をしていました。それは大きい子の強い刺戟をさけるためと、獨り遊びの時代であるから、他のじやまを出来るだけ少くしたいためでした。

お辨當持参で遠くまで散歩に行く組。近くを一まわりする組などが出てしまつたあとは園内がひっそりします。庭に室に二三人ずつかたまつて遊んでいるもの、一人で何か一生懸命つづけている子。こうなると人なかでは遊べない子でも遊びはじめます。皆が遊びに熱中している時は、保姆は手を出さないことにしていましたから、そんな時は落葉はきや、こわれもの・修繕などしながら氣をくばっていました。本當に今想ひ出してもこの時はたのしうございました。いつかそばへよつて来た子が繪本のつくろいを手傳つてくれたり、たき火へごみを運んでくれたりしました。集めた枯葉や枯枝をもしながら焼芋や焼栗をしておやつにした時のたのしかつたこと。みんな口のまわりをまづくろにして大笑いしたものでした。おやつは毎日でしたが、中での秀逸は幼児たちと一處に作つた小豆でおしるをこしらえた時。皆でまるめたおだんごにお砂糖かけた十五夜の日、出席が少かつたので、火鉢のまわりに集つてお好み焼をした大雪の日などが忘れることが

出来ません。物の豊富にあつた時代と、今とではもちろん同じには出来ませんが、物は工夫によつて補ひもつくと思ひます。廢物利用も亦教育的に有意義なのですから。

併し幼児の数だけは無理をしたくないものです。四十人五十人もあすかつてどうなるものでしょう。しかもそれが三組四組とあり、その上、町中で散歩に出る處もないとしたら、グループの分散も何も出来にくいではありませんか。

又從來の幼稚園の中には、二時間か三時間でおかえりという處が澤山ありますが、それで園児がみつちり遊べるのでしようか。私の経験では幼児も先生も時間を忘れて遊びに熱中した時が本當によい保育の出来た時だつたと思います。先ず第一によく遊べるようにすることではないでしょうか。あまりにも遊ばせることに苦心し何もかもお膳立をして幼児をひつぱりまわしすぎはしないでしょうか。だから幼児が疲れる、瘦れるから早く歸すといふことになるではありませんか。それでは幼児の自由意志で遊ぶ時間がありますまい。幼児は自然のまゝ好きに遊ばせておけば疲れることを知りません。まして遊びの中に保育しようというのです。時間は充分あたえたいものと思ひます。此點は小學校の低學年にも希うことです。

成城ですごした十數年間はそのしかつただけでなく、私にはよい修業でありました。私が退いて三年目、あの戦火は殘念にも園舎を灰にしてしまいました。今はただなつかしいおもい出として私の胸に残るばかりでございます。